## 随　　想

# 鉄　の　将　来

永　野　　治*

鉄は永年の間文字通り文明のささえであつた．鉄なしの世界を考えることは困難なほどである．鉄の生産や消費の規模はごく自然に国力の指標として認められてきた．

しかしいつまでもそうであろうか．そうした心配をする声も次第に耳にするようになつた．アルミニウムや合成樹脂材が広く用いられるようになり，近頃の技術開発の速やかさをもつてすれば，まだ何が起こるかわからないという危惧不安が，鉄をたのみに暮らしてきた人々のあいだにわいてくるのは無理もないのである．

それにわが国のように鉄鋼業の急成長が続くと，原料入手や立地の問題などの見通しもつけ難く，みずからの成長速度をもてあます向きも見られるのである．

しかしわれわれは先のことを心配するほど鉄について十分に知り，十分に試みているであろうか．みずからの力や価値を知らないで先の見通しをたてたりしてはいないだろうか．

世界的に学会協会が活発に活動して知識を交換し，また商業活動や出版物を通じても有用な情報の流通が行なわれてはいるが，それらによつて十分に協力の成果をあげているであろうか．競走意識の過剰からつまらぬ無駄が行なわれているのではないだろうか．

こうした疑問のたねは人間世界のあらゆる活動面に見られることではあるが，世の中が進歩しているのだと信ずるためにも少しずつでよいから改善の徴を見つけたいものである．

5000 年来人間は鉄を研究してきた．無数の人が無数の研究をして，その成果の集積が現代の鉄の文明を築き上げたのである．しかしその間にはらわれた無駄はもつと大きかつたのではないだろうか．

鉄に関しての可能性はこれからもふえこそすれ減ることはないであろう．もつと強く，もつと耐候性があり，もつと成形しやすく，もつと安価な鉄があらわれつづけるであろう．これからも数えきれない工夫発見がなされるであろうが，それらの綜合成果を最大にするには世界的な規模での研究管理体系を作り上げるべきであろう．それが鉄の将来をさらに明るいものにするであろう．

適者生存，優勝劣敗は生物進化のメカニズムであつた．しかし弱肉強食よりも協力関係のほうが適者の要因となりやすいであろう．それに協力関係は各個人を専門化するのに役立つであろう．協力関係の規模範囲が広くなるほど各個人の専門分野はせばめうる理であり，個人の活動エネルギーが限られている以上専門分野はせまいほど高度の成果が望めるはずである．

知恵があるようには見えても人間の理性があつかいうる事象の量はごく限られたものである．繰りかえして自然を観察し，試み，工夫して，新境地がひらかれてゆくのである．こうした可能性を高めるために，専門分野をせばめていくことが有効なのである．

専門分野をせばめることは視野をせばめて知的活動を貧しくするのではないかと案ずる理由がある．しかし専門分野をせばめることと，視野をせばめることとは同じではない．研究活動の分野はその人の

* 石川島播磨重工業(株)副社長

知識の範囲や能力の限界と同じものではない．むしろ狭いけれども深い活動の分野を持つことによつて専門外の事柄の洞察も深くなるのが普通である．

だから本当に考え深い人なら不用意に自分の活動範囲を広げようとはしないであろう．

こうした考えを発展させていけば鉄の将来が心配になつて気が散るようなことはなくなるはずである．

鉄の将来は鉄を扱う人々の意志と労作とが決めるにちがいない．しかしこれをもつと高い視角から眺めれば自然的な適者生存則に従うのであろう．浅はかな人間の智恵や思惑にはおかまいなく，大河のような歴史の流れに従つていくのであろう．

日進月歩の人間世界は，いわゆる情報化の時代にはいつて，あらゆる事象や徴候が全世界に時を移さず伝播し，人々はそれらを手ばやく解析して向かうところを結論できるようになつてきた．しかしこの情報化の趨勢は，同時により多くの変化の可能性を持たせることにもなるので，未来の見通しがつけやすくはないのである．

所詮われわれにできることは現在踏み出す一歩を，より確実に，より合理的にする以上のものではなさそうである．

神妙な宗教心が永遠に必要なのである．